

【講師用】 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材の活用方法について

1. 演習教材作成の目的

- ・ 本演習教材は、令和6年度老人保健健康増進等事業「福祉用具専門相談員指定講習カリキュラムの適切な実施に向けた調査研究事業」において作成した「福祉用具専門相談員指定講習 指導要領」に基づき、より効果的な演習を実施いただくための教材として作成したものです。
- ・ 福祉用具の安全利用とリスクマネジメントの科目は、令和7年4月に周知されたカリキュラムから新科目として追加されました。
- ・ この演習では、受講者が介護の場面に潜んでいる事故リスクやヒヤリ・ハットを人（利用者・介護者・関係者）・福祉用具・環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）の視点から想像できるようになることと、福祉用具を安全に利用してもらうためには福祉用具専門相談員としてどのような対応策が必要になるか、またそれを利用者や家族に伝えることの大切さを指定講習受講の段階から経験することが重要となります。
- ・ 指導要領に基づく演習を実施いただくにあたり、是非、本演習教材をご活用ください。

2. 演習教材の内容

- ・ 福祉用具の安全利用とリスクマネジメントにおける演習教材として以下の資料を準備しています。各資料の使い方は、「3. 演習教材を使った演習の進め方」をご参照ください。

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材一式

練習事例	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（ワークシート記載例）
演習事例1	介護ベッドからの立ち上がりの場面
	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：ワークシート） 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：解答例） 【講師用】 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（解説例）
演習事例2	車いすから介護ベッドへの移乗の場面
	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：ワークシート） 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：解答例） 【講師用】 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（解説例）
演習事例3	下り坂で家族が車いす介助を行っている場面
	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：ワークシート） 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：解答例） 【講師用】 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（解説例）
演習事例4	雨天時にハンドル形電動車椅子で踏切を横断している場面
	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：ワークシート） 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：解答例） 【講師用】 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（解説例）

3. 演習教材を使った演習の進め方

- ・複数の演習事例をご用意しておりますが、科目の時間は限られておりますので、いずれかの事例を選択いただきご活用ください。
- ・演習の進め方は指導要領の「4.3.福祉用具の安全利用とリスクマネジメント」(9)講義・演習の進め方を1例としてご紹介します。

演習方法例	配布資料・指導内容例
演習方法の説明	・「練習事例」を配布 ・ワークシートの構成、検討の視点を説明 ・検討結果の記載方法・内容について説明
個人ワーク	・「演習事例1～4」いずれかのワークシートを配布 ・受講者個人での気づきを促す (気づきの視点は講師用解説例の「指導の視点」を参考にする)
グループワーク	・個人ワークで検討した内容をグループで共有する ・受講者同士で気づきを共有する
発表・まとめ	・グループの中から代表者を決め、全体に向けて発表する ・講師は講師用解説例の「事例の解説例」を基に、各発表の講評をする ・最後に解答例を配布し、講師が解説をする

4. 演習を通じて受講者に理解いただきたい点

- ・本演習を通じ、受講者の方に理解いただきたい点は、指導要領の「4.3.福祉用具の安全利用とリスクマネジメント」(11)確認ポイントとして示されている以下のとおりです。

- | |
|--|
| ☐ 事故情報の公表機関や収集方法を理解しているか
☐ 事故発生時の対応や報告の進め方を理解しているか
☐ 代表的な重大事故やその要因、ヒヤリ・ハット事例の列挙
☐ 事故予防のためのモニタリングでのチェックポイントを把握しているか
☐ 利用者への説明の際のコミュニケーションにおける注意点を把握しているか |
|--|

- ・また、福祉用具専門相談員としては以下の視点を踏まえた検討が必要であることから、これらの視点を意識した指導を実施いただき、受講者の理解を促してください。

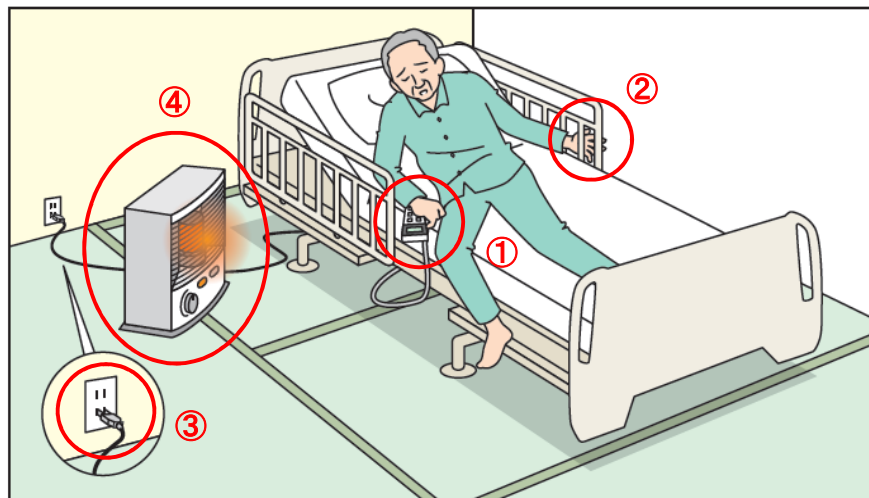
※ 介護保険における福祉用具の選定の判断基準（令和6年7月厚生労働省老健局高齢者支援課）より抜粋

気づきの視点	具体的な視点的例
①利用目的	要介護者等や家族の思い、希望する生活 等
②利用者	要介護者等の希望、心身の状況・変化 等
③介護者	介護力、介護技術 等
④住環境	住宅の構造、生活動線 等
⑤他の福祉用具	複数の用具を使用する場合の動作や生活の流れ 等

以上

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：記載例）

介護ベッドからの起き上がりの場面



※イラスト内の番号は、下の解答例の番号に対応。

どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

①利用者が手元スイッチに誤って触れてしまい、ベッドが背上げされ、②ベッド柵の隙間に手を挟み込む可能性がある。

■福祉用具に関する危険

③介護ベッドの電源コードが抜けかかっており、感電したり発火して火災につながる可能性がある。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

④ストーブが介護ベッドの近くに置かれているため、フレームが変形したり、火災につながる可能性がある。

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

手元スイッチを使用しない時には、スイッチ面を外側に向けてサイドレールに引っ掛けるなど、安全な場所に置くように説明する。

■福祉用具に関する対策

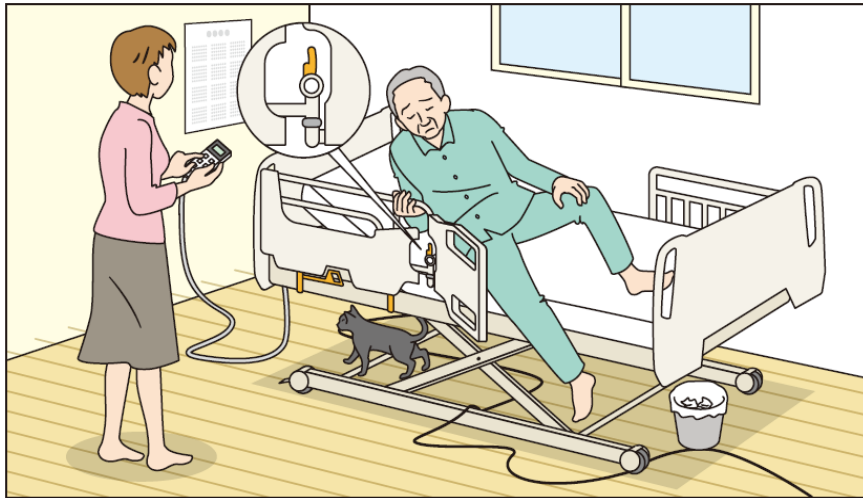
介護ベッドを搬入・設置する際には、電源コンセントを奥までしっかり差し込む。また利用者や家族にも定期的に確認するように説明する。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

ストーブは介護ベッドから離して設置するように説明する。利用者や家族に普段から使用環境へも配慮するように説明する。

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：ワークシート）

介護ベッドからの立ち上がりの場面



どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

■福祉用具に関する危険

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

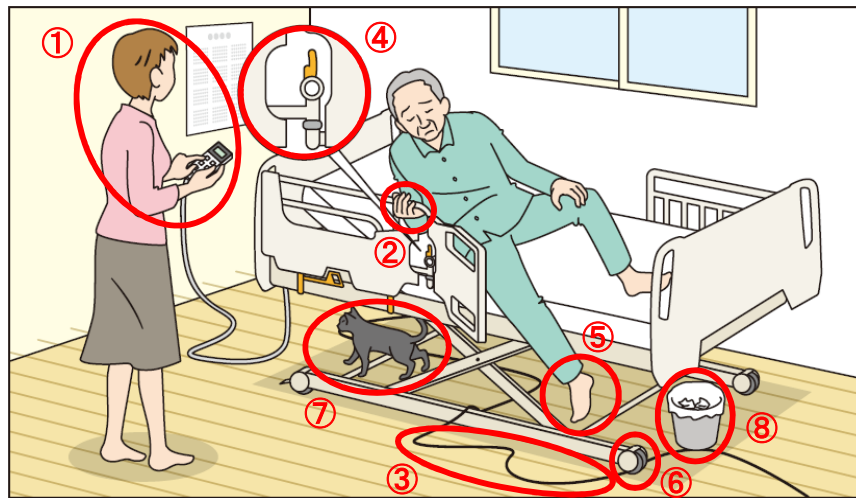
■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

■福祉用具に関する対策

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：解答例）

介護ベッドからの立ち上がりの場面



※イラスト内の番号は、下の解答例の番号に対応。

どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

- ・①介護者がよそ見をしたまま背上げ操作を行い、②利用者がベッド用グリップの隙間に手を挟み込む可能性がある。
- ・利用者が介護ベッドから立ち上がった際に、③電源コードが足に引っ掛かり転倒の可能性がある。

■福祉用具に関する危険

- ・④ベッド用グリップが固定されておらず、立ち上がりの際に動いて利用者が転倒する可能性がある。
- ・⑤介護ベッドの高さが高すぎて足が床に届かず、利用者がベッドから転落する可能性がある。
- ・⑥介護ベッドの脚が電源コードを踏みつけており、断線して故障や火災につながる可能性がある。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

- ・⑦介護ベッドの高さを下げた時に、猫（ペット）がベッド下に潜り込んでいることに気づかず、挟み込んでしまう可能性がある。
- ・⑧介護ベッドの高さを下げた時に、ベッド下にゴミ箱があることに気づかず破損する可能性がある。

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

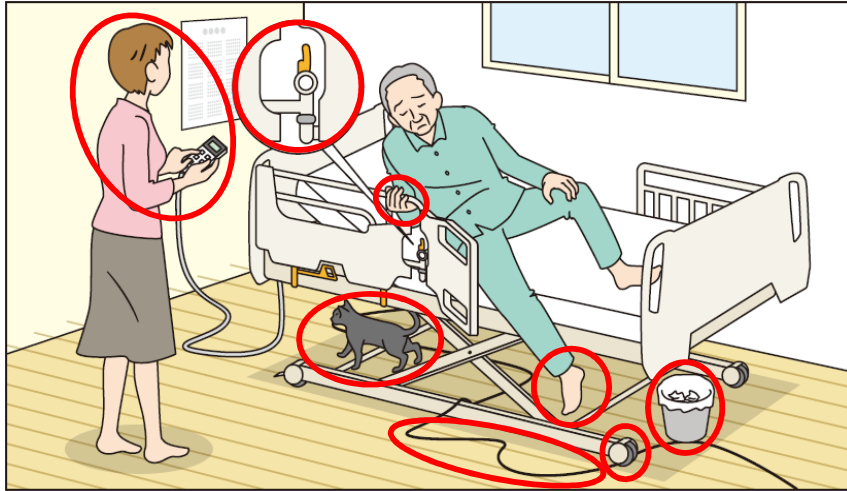
- ・手足を挟み込まないために、声掛けをしながら介護ベッドを操作するように介護者に説明する。
- ・利用者が立ち上がる際は、足が床につく高さに介護ベッドの高さをあわせる、介護をする際は腰を痛めないように高さを上げるなど、高さ調整の活用方法を丁寧に介護者に説明する。

■福祉用具に関する対策

- ・ベッド用グリップは固定された状態になっていることを都度確認するよう介護者に説明をする。
- ・電源コードは引っ張ったり踏んだりしていないかを確認し、人が通らない場所に配線する。利用者や家族にも定期的に確認するように説明する。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

- ・利用者や家族に対し、ペットが介護ベッド周りにいないか、またベッドの下に潜り込んでいないかを確認するように説明する。
- ・介護ベッドの下には物を置かないなど、普段から周辺の整理整頓をするよう利用者や家族に説明する。

【講師用】 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（解説例）**介護ベッドからの立ち上がりの場面****演習における指導の視点**

- この演習では、受講者が介護の場面に潜んでいる事故リスクやヒヤリ・ハットを想像できるようになることと、利用者の状態像や家族の状況、環境などを踏まえ、福祉用具を安全に利用してもらうためには福祉用具専門相談員としてどのような対応策が必要になるかを指定講習受講の段階から経験することが重要となります。
- 講師の方は、受講者が以下の視点を踏まえながら事例を検討できるように促してください。不足している視点があれば補足しながら、気づきを得られるように指導してください。本事例で示している解答例はあくまで事例であるため、講師の方のご経験等も交えて解説してください。
- 受講者が検討したリスクマネジメントの内容、必要な対策などを発表しあうことで、受講者同士がお互いの気づきについて共有できるようにしてください。

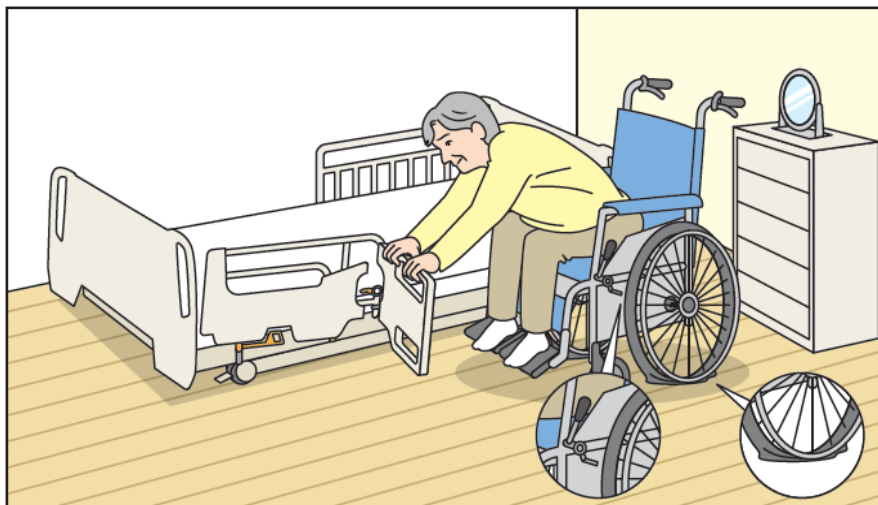
気づきの視点	気づきを促す指導例
①利用目的	・介護ベッドを利用する目的を踏まえたリスクを想像できているか。 ・介護ベッドの特徴や注意事項を理解したうえで、リスクを想像できているか。
②利用者	・事故リスクの高い利用者像（認知症、独居など）を想像できているか。 ・介護ベッドの操作や乗り降りをするタイミングや頻度を考えて、リスクを想像できているか。
③介護者	・家族、介護サービス事業者等によるリスクも想像できているか。 ・家族、介護サービス事業者等へ事前の注意喚起も検討できているか。
④福祉用具	・介護ベッド以外の付属品（サイドレールやベッド用グリップなど）の利用も踏まえた事故リスクの検討が出来ているか。 ・電源コードによる転倒や断線して故障や火災のリスクまで想像できているか。
⑤住環境	・介護ベッド周辺の家具等との位置関係を踏まえた想像ができていないか。 ・ペットが介護ベッド周辺にいる場合のリスクが想像できているか。

事例の解説例

介護ベッドからの転落やサイドレールのすき間などへの手足を挟み込みについては、利用者だけでなく家族や介護関係者に対しても事前に注意喚起を行しましょう。利用者や家族にとっては福祉用具は初めて利用することになりますので、分かりやすい言葉でゆっくりと丁寧に説明することが大切です。

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：ワークシート）

車いすから介護ベッドへの移乗の場面



どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

■福祉用具に関する危険

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

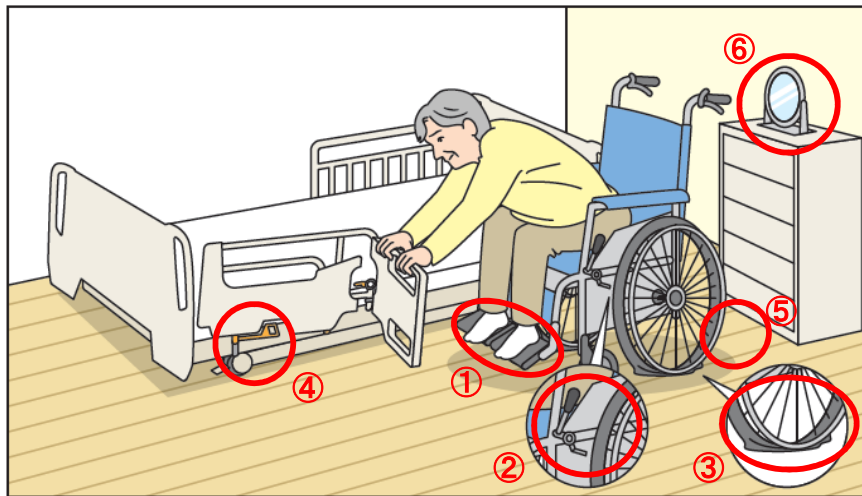
■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

■福祉用具に関する対策

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：解答例）

車いすから介護ベッドへの移乗の場面



※イラスト内の番号は、下の解答例の番号に対応。

どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

- ・ ①利用者がフットサポートに足を乗せたまま移乗しようとして、後輪が浮き上がり車いすごと転倒する可能性がある。
- ・ ②利用者が車いすのブレーキをかけ忘れており、移乗の際に車いすが動いてしまい転倒する可能性がある。

■福祉用具に関する危険

- ・ ③車いすのブレーキを掛けてもタイヤ空気圧が不十分なため固定されず、車いすが動いてしまい転倒する可能性がある。
- ・ ④ベッド用グリップが抜けかかっており、支えにした際に動いてしまい転倒する可能性がある。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

- ・ ⑤フローリングの床が滑りやすく、移乗の際に車いすが動いてしまい転倒する可能性がある。
- ・ ⑥車いすが動いてしまい、後ろにある棚から鏡が落ち、怪我をする可能性がある。

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

- ・ 移乗の際に使用する各福祉用具の使い方について、利用者に説明する。
- ・ 利用者に福祉用具の操作や移乗動作を実際に行ってもらいながら繰り返し指導する。

■福祉用具に関する対策

- ・ ベッド用グリップを設置した際に、実際に自分で荷重をかけてみて、設置に問題ないか再確認する。
- ・ 車いすのタイヤの空気圧やブレーキの利き具合などは、事前に整備しておく。
- ・ 簡単な日常点検として、車いすの空気圧の確認を利用者や家族、介護関係者にも定期的実施するように説明する。

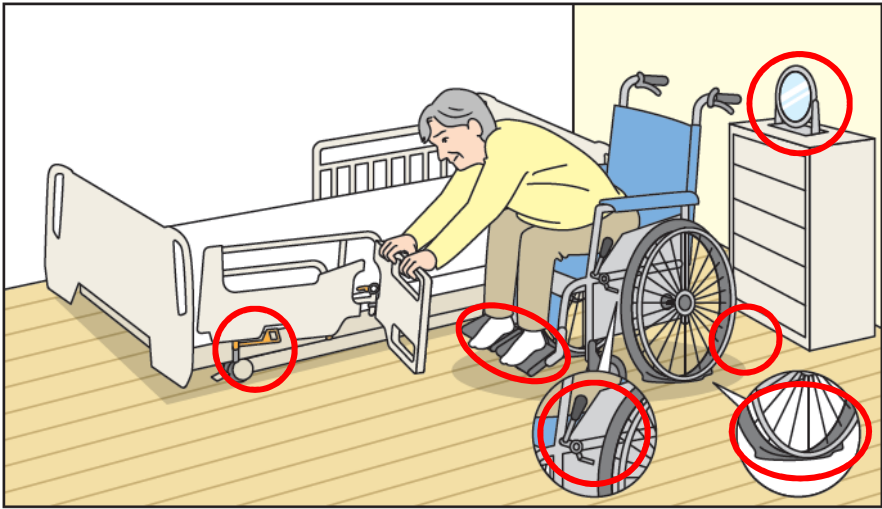
■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

- ・ 搬入・設置後に、実際に自分で福祉用具を使いながら移乗動作を試し、車いすと床材の相性や移乗場所周辺にぶつかる物がないか等、環境について確認をする。
- ・ 普段から車いす周りの使用環境へ配慮するように、利用者や家族に説明する。

【講師用】福祉用具の安全利用とリスクマネジメント

演習教材（解説例）

車いすから介護ベッドへの移乗の場面



演習における指導の視点

- この演習では、受講者が介護の場面に潜んでいる事故リスクやヒヤリ・ハットを想像できるようになることと、利用者の状態像や家族の状況、環境などを踏まえ、福祉用具を安全に利用してもらうためには福祉用具専門相談員としてどのような対応策が必要になるかを指定講習受講の段階から経験することが重要となります。
- 講師の方は、受講者が以下の視点を踏まえながら事例を検討できるように促してください。不足している視点があれば補足をしながら、気づきを得られるように指導してください。本事例で示している解答例はあくまで事例であるため、講師の方のご経験等も交えて解説してください。
- 受講者が検討したリスクマネジメントの内容、必要な対策などを発表しあうことで、受講者同士がお互いの気づきについて共有できるようにしてください。

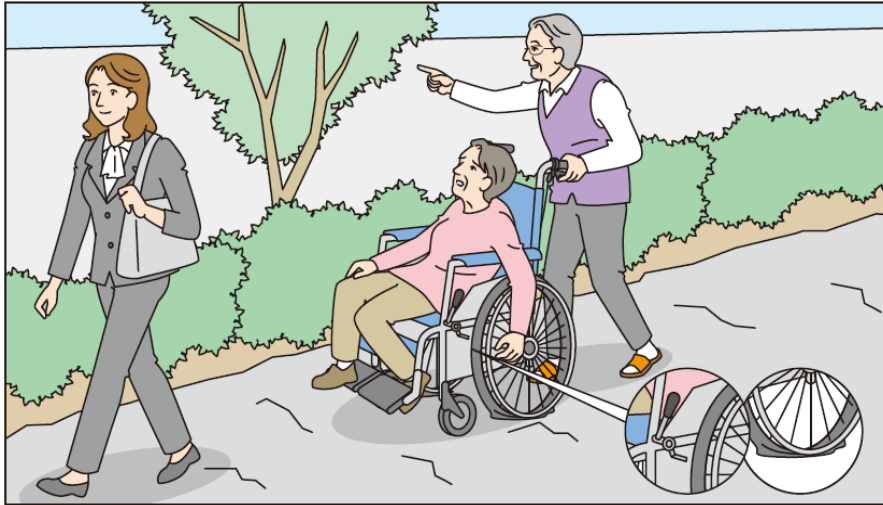
気づきの視点	気づきを促す指導例
①利用目的	・ 車いすを利用する目的を踏まえたリスクを想像できているか。 ・ 車いすの特徴や使用上の注意事項を理解したうえで、リスクを想像できているか。
②利用者	事故リスクの高い利用者像（認知症、独居など）を想像できているか。
③介護者	家族、介護サービス事業者等への注意喚起も検討できているか。
④福祉用具	アームサポートの跳ね上げ機能やフットサポートの着脱機能のある車いすの利用、自動ブレーキ機能付き車いすの利用などがイメージできているか。
⑤住環境	移乗動作が安全に行える環境整備(介護ベッド周辺の整理整頓、床素材が滑らないかなど) が想像できているか。

事例の解説例

利用者や介護者による車いすのブレーキのかけ忘れや、メンテナンスの不備によるブレーキ不具合は重大事故につながる可能性もあります。福祉用具専門相談員は定期的な点検を実施するとともに、ブレーキのかけ忘れが生じないよう利用者や家族に対して都度注意喚起を図ります。タイヤ空気圧の確認などの日常点検は、家族や介護関係者にお願いすることも事故防止につながります。

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：ワークシート）

下り坂で家族が車いす介助を行っている場面



どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

■福祉用具に関する危険

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

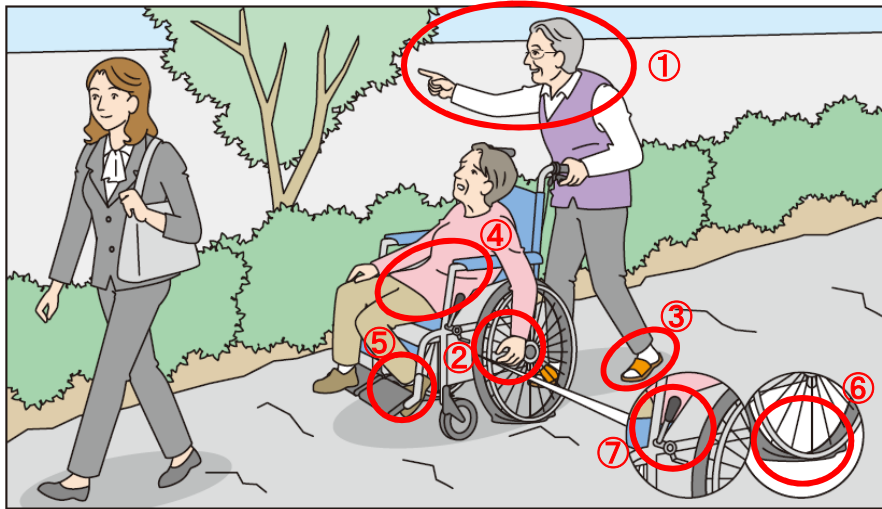
■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

■福祉用具に関する対策

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：解答例）

下り坂で家族が車いす介助を行っている場面



※イラスト内の番号は、下の解答例の番号に対応。

どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

- ・ ①介護者がよそ見をしながら車いすを押そうとして、②利用者の手をタイヤに挟み込む可能性がある。
- ・ ③介護者がサンダルを履いていることから転倒しそうになり、利用者にも怪我をさせる可能性がある。
- ・ ④利用者の姿勢が崩れ、⑤足がフットサポートから落ちて車いすの下に巻き込む可能性がある。

■福祉用具に関する危険

- ・ ⑥車いすのタイヤの空気圧が不十分で、⑦ブレーキも掛かっていないため、下り坂で重大事故につながる可能性がある。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

- ・ ④路面が凸凹しており、振動で利用者が車いすから落下する可能性がある。
- ・ ④坂道を正面から下っているため、利用者の姿勢が崩れて車いすから落下する可能性がある。

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

- ・ 介護者に車いすを実際に操作してもらいながら、基本的な操作方法や使用上の注意点について説明する。
- ・ 車いすを操作する際は、利用者に声掛けをしながら操作するように介護者に説明する。
- ・ 車いすを屋外で使用する際は、動きやすい靴を履くよう介護者に説明する。

■福祉用具に関する対策

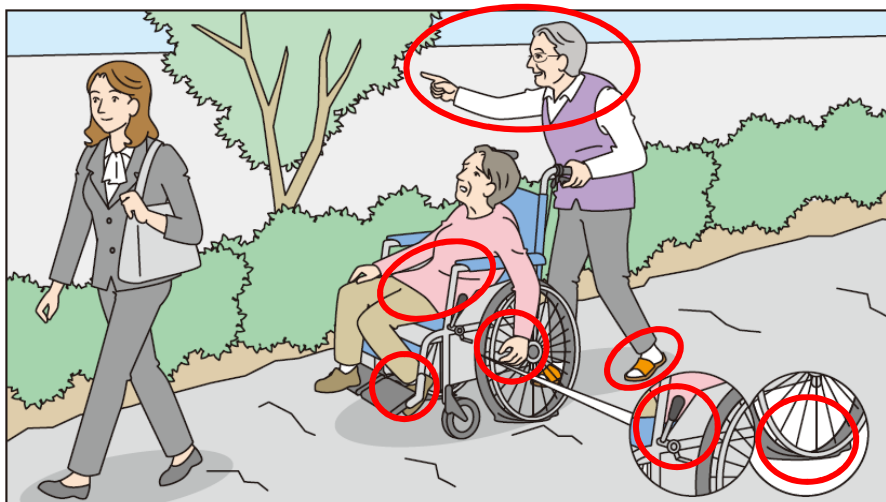
- ・ 車いすのタイヤの空気圧やブレーキの利き具合などは、事前に整備をしておくとともに、介護者には定期的に確認し、不具合がある際はすぐに連絡をするように説明する。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

- ・ 坂道や段差など危険な箇所がないか、車いすを実際に使用する屋外環境を事前に把握し、環境に応じた注意事項（勾配が急な下り坂での走行と停車は後ろ向きに行うなど）を利用者や家族に説明する。

【講師用】 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（解説例）

下り坂で家族が車いす介助を行っている場面



演習における指導の視点

- この演習では、受講者が介護の場面に潜んでいる事故リスクやヒヤリ・ハットを想像できるようになることと、利用者の状態像や家族の状況、環境などを踏まえ、福祉用具を安全に利用してもらうためには福祉用具専門相談員としてどのような対応策が必要になるかを指定講習受講の段階から経験することが重要となります。
- 講師の方は、受講者が以下の視点を踏まえながら事例を検討できるように促してください。不足している視点があれば補足をしながら、気づきを得られるように指導してください。本事例で示している解答例はあくまで事例であるため、講師の方のご経験等も交えて解説してください。
- 受講者が検討したリスクマネジメントの内容、必要な対策などを発表しあうことで、受講者同士がお互いの気づきについて共有できるようにしてください。

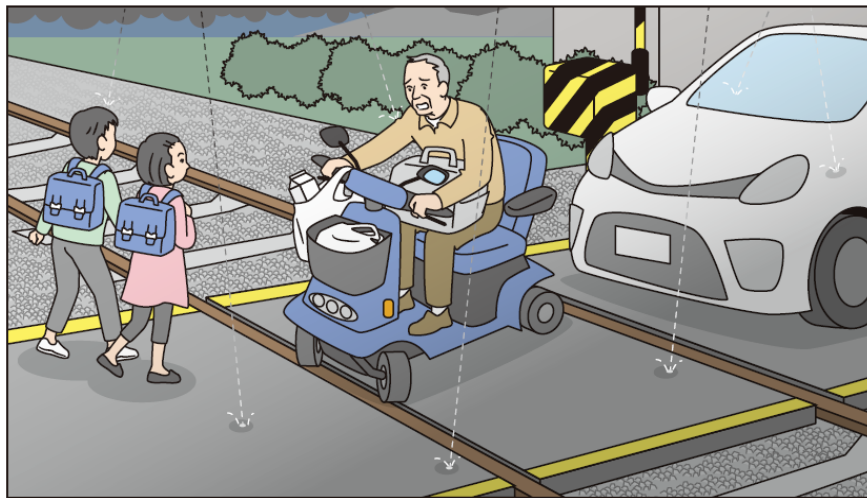
気づきの視点	気づきを促す指導例
①利用目的	車いすを屋外で利用する目的を踏まえ、リスクを想像できているか。
②利用者	事故リスクの高い利用者像（姿勢保持能力の程度など）を想像できているか。
③介護者	介護者の理解力や介護力がどの程度あるかを踏まえたリスクを想像できているか。
④福祉用具	利用者の座位保持能力や介護者の理解度、屋外環境等を踏まえて、リクライニング・ティルト式車いす、車いす用クッション、介助用電動アシスト車いすなどの利用もイメージできているか。
⑤住環境	車いすを使用する屋外環境を踏まえたリスクが想像できているか。

事例の解説例

車いすを屋外で利用する場合、福祉用具専門相談員は、段差の乗り越え方や坂道での操作などの基本的な操作方法の指導に加えて、使用する頻度や時間帯、交通量の多さや交差点の有無などといった屋外の環境を事前に把握し、環境に応じた安全利用のポイントを利用者や介護者に助言することも重要な役割となります。

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：ワークシート）

雨天時にハンドル形電動車椅子で踏切を横断している場面



どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

■福祉用具に関する危険

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

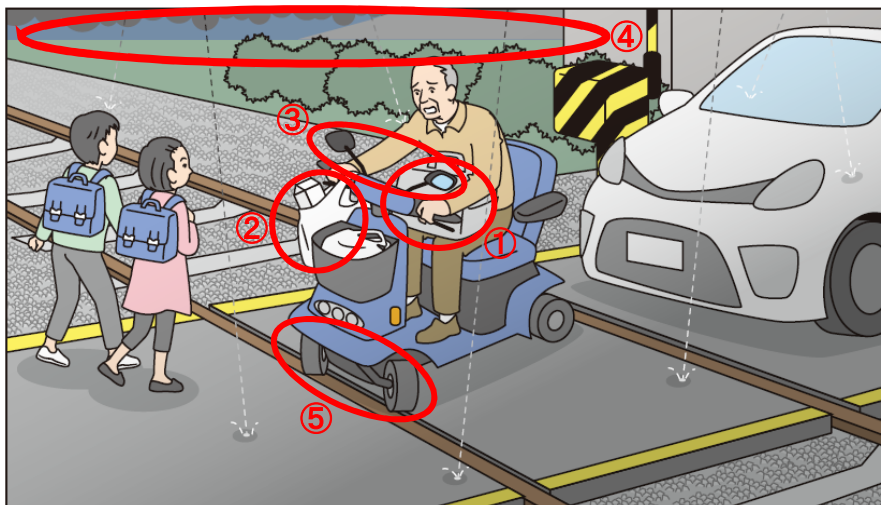
■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

■福祉用具に関する対策

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

福祉用具の安全利用とリスクマネジメント 演習教材（受講者用：解答例）

雨天時にハンドル形電動車椅子で踏切を横断している場面



※イラスト内の番号は、下の解答例の番号に対応。

どのような危険がひそんでいるでしょうか？

■人（利用者・介護者・関係者）に関する危険

①足元や胸元に荷物を置いたり、②ハンドルに荷物を掛けているため、適切なハンドル操作ができず事故につながる可能性がある。

■福祉用具に関する危険

③バックミラーの位置調整が不適切なため、後方からくる車両に気づかず、接触事故につながる可能性がある。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する危険

- ④雨天に使用していることで、視界が悪くなり事故につながる可能性がある。
- ⑤線路の溝にタイヤがハマり、踏切内で立往生し、重大事故につながる可能性がある。

福祉用具専門相談員として、どのような対策が必要か検討してみましょう。

■人（利用者・介護者・関係者）に関する対策

- 電動車椅子の利用状況を家族やケアマネジャー等から情報を適宜収集しながら、夜間や雨天時には使用しないことや交通法規を遵守することなどを利用者に繰り返し説明する。利用者の理解を得ることが難しい場合には、貸与中止も検討することを利用者や家族、ケアマネジャーに説明する。

■福祉用具に関する対策

- 利用開始に至るまでの指導は必ず段階を踏んで行う。基本的な機能と適切な使用方法、利用するうえでの注意事項については時間をかけて利用者にゆっくり丁寧に説明し、操作指導は広く安全な場所からはじめ、運転操作にある程度慣れてきてから路上で実践指導を行う。

■環境（福祉用具の使用場所や使用場面等）に関する対策

- 踏切は原則使用せず迂回路を利用すること、やむを得ない場合は介助者に同伴してもらうことの指導を利用開始時に利用者や家族に説明する。

参考資料 一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会（2021）

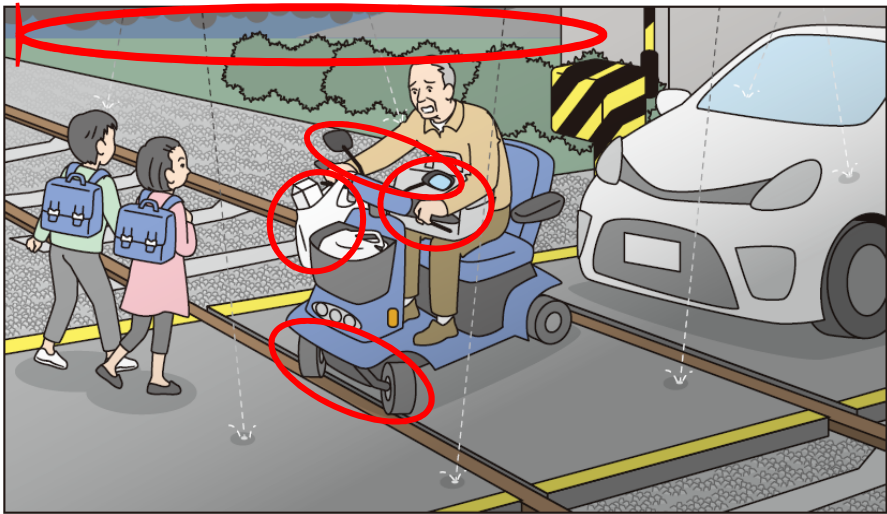
- ・ハンドル形電動車椅子の貸与実務における安全利用のためのガイドライン
https://www.zfssk.com/sp/1302_chosa/report_pdf_2021/01.pdf
- ・ハンドル形電動車椅子の貸与実務における安全利用のための指導手順書
https://www.zfssk.com/sp/1302_chosa/report_pdf_2021/02.pdf



【講師用】福祉用具の安全利用とリスクマネジメント

演習教材（解説例）

雨天時にハンドル形電動車椅子で踏切を横断している場面



演習における指導の視点

- この演習では、受講者が介護の場面に潜んでいる事故リスクやヒヤリ・ハットを想像できるようになることと、利用者の状態像や家族の状況、環境などを踏まえ、福祉用具を安全に利用してもらうためには福祉用具専門相談員としてどのような対応策が必要になるかを指定講習受講の段階から経験することが重要となります。
- 講師の方は、受講者が以下の視点を踏まえながら事例を検討できるように促してください。不足している視点があれば補足をしながら、気づきを得られるように指導してください。本事例で示している解答例はあくまで事例であるため、講師の方のご経験等も交えて解説してください。
- 受講者が検討したリスクマネジメントの内容、必要な対策などを発表しあうことで、受講者同士がお互いの気づきについて共有できるようにしてください。

気づきの視点	気づきを促す指導例
①利用目的	ハンドル形電動車椅子を屋外で利用する目的を踏まえ、リスクを想像できているか。
②利用者	利用者の身体機能と認知機能を踏まえて、リスクを想像できているか。
③介護者	家族やケアマネジャーなど関係者全員からの情報収集が重要であることに気づいているか。
④福祉用具	ハンドル形電動車椅子の利用が危険と判断し、貸与中止を検討する際に、代替手段となる福祉用具を提案することも大切であることに気づいているか。
⑤住環境	ハンドル形電動車椅子を使用する屋外環境を踏まえたリスクが想像できているか。

事例の解説例

受講者用回答例に記載している「車椅子の貸与実務における安全利用のためのガイドライン」と「ハンドル形電動車椅子の貸与実務における安全利用の為の指導手順書」等を参考にし、福祉用具専門相談員として利用者の安全を第一に優先してサービスを提供するよう努めて下さい。